

事業別の成長戦略と進捗



廃液・廃油・汚泥のリサイクル事業

この事業を担う主要会社
ダイセキ、北陸ダイセキ



ダイセキ名古屋事業所の活性汚泥処理施設

廃液・廃油・汚泥のリサイクル事業では、産業廃棄物の収集運搬・中間処理とリサイクル製品の製造・販売を中心に事業を展開しています。

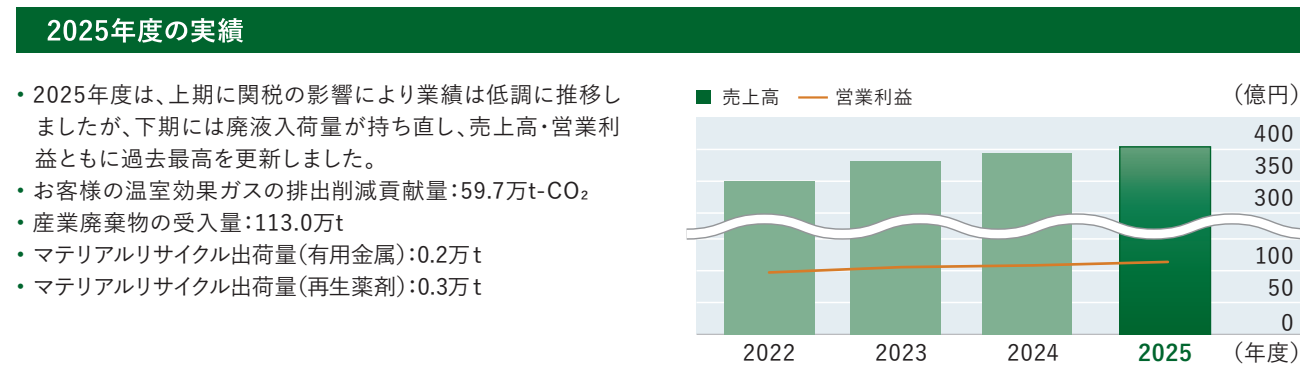
廃液は基準を満たすまで浄化したうえで、廃液中の有用金属は金属滓、廃油は再生燃料、汚泥はセメント原料として再資源化しています。

このような取り組みを通じて、地球環境の保全と持続可能な社会の実現に貢献しています。さらに、焼却処理と比較して温室効果ガスの排出量を低減できるリサイクル手法を採用することで、カーボンニュートラルにも貢献します。

事業の強み

- 産廃処理サービスの提供とリサイクル資源の販売の両方で収益を上げるビジネスモデル
- リサイクル率の高さ
- 低炭素処理によるカーボンニュートラルへの貢献

- 幅広い産業廃棄物の取扱品目
- 全国に大規模な処理工場を有するネットワーク
- 災害発生時の緊急対応能力の高さ



環境認識

リスク

- サーキュラーエコノミーへの移行加速に伴う製造業における廃棄物削減や製造工程内でのリサイクル(内製化)の定着
- エネルギーコストや外注費用をはじめとする物価高騰の長期化
- 厳格な廃棄物処理法の規定による事業拡大への障壁

機会

- カーボンニュートラルを求める顧客の増加に伴う廃棄物のリサイクル事業の需要拡大
- サーキュラーエコノミーへの移行に向けた国による政策の推進及び企業による再生材利用の推進
- 製造業の国内回帰によるビジネスチャンスの拡大

中長期的な事業計画や施策

- 廃液・廃油・汚泥の処理能力増強に向けた設備投資、及び新規事業の確立に向けた成長投資を継続的に実施しています。
- 課題解決型企業への進化に向けて人事制度の刷新に着手しています。
- SyncMOFから事業を譲り受け、金属有機構造体(MOF)技術を活用したアンモニアやCO₂、水素などの気体回収事業への拡大に着手しています。

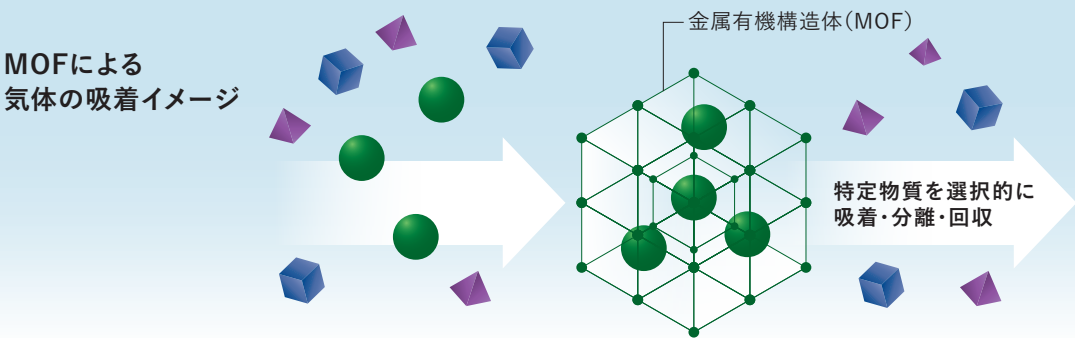
- 使用済みの潤滑油を再生する事業を計画しています。
- グループ各社の顧客基盤の相互共有による事業基盤のさらなる強化、グループ一体経営のさらなる深化に向けて、ダイセキ環境ソリューションのTOB(株式公開買付け)を実施しました。

FOCUS 廃棄物由来ガスのリサイクルを可能にするMOFの技術

MOF(Metal-Organic Frameworks)は多孔性配位高分子(PCP)とも呼ばれ、金属イオンと有機配位子がジャングルジム状に組み上がった多孔性材料です。金属イオンと有機配位子の組み合わせを変えることで、細孔の大きさや表面特性を自在に設計できるため、混合ガスの中から特定の成分を選択的に吸着・分離することが可能です。この特長を活かし、ガスの分離・回収や資源循環など幅広い分野への応用が期待されており、近年世界的に研究開発が進んでいます。2025年10月には開発

者である京都大学特別教授の北川進氏をはじめとする3名がノーベル化学賞を受賞し、MOFへの注目はさらに高まっています。

ダイセキではMOFの合成・評価から装置開発までを一貫して手掛けており、アンモニア回収をはじめ、CO₂や水素などのガス回収への応用展開を進めています。さらに、ダイセキが培ってきた廃液中の資源回収技術と組み合わせることで、従来困難であったリサイクル領域への展開を図ります。



2025年度の主なトピック

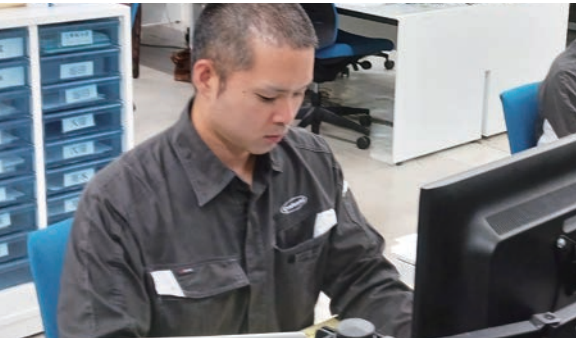
ダイセキ北陸事業所と関東事業所が連携し、機動力を活かして新潟県上越地方の浸水被害企業を復旧支援

2025年9月に発生した大雨の影響で、A社(製造業)では工場内全域が浸水し、さらに停電により工場外に排水できない状態となりました。

ダイセキはその翌日、タンクローリー車とバキューム車を複数台手配して、雨水と油の混ざった廃液を回収しました。その後、9月から12月の間に合計で208台の大型車両を手配し、2,080tの廃液を回収し、A社の生産活動の復旧を支援しました。

担当者の声

一刻も早い復旧のためには、災害廃棄物を迅速に搬出する必要があります。苦勞したのは、通常業務の配車を行いながら、並行して復旧対応のための車両手配を進めなければならなかったことです。自社車両だけでは到底足りない状況でしたが、協力会社の皆様が私たちの呼びかけに答え、多くの車両を貸し出してくださり、活動を支えてくださいました。膨大な数の車両の手配と運行管理は決して容易ではありませんが、それこそが配車係として果たすべき役割だと考えています。

復旧支援に活躍したバキューム車

ダイセキ北陸事業所 業務部 配車担当

事業別の成長戦略と進捗



汚染土壌のリサイクル事業

この事業を担う主要会社
ダイセキ環境ソリューション

土壌汚染関連事業では、コンサルティングから調査・分析・処理までを自社で完結するワンストップ体制を構築しています。

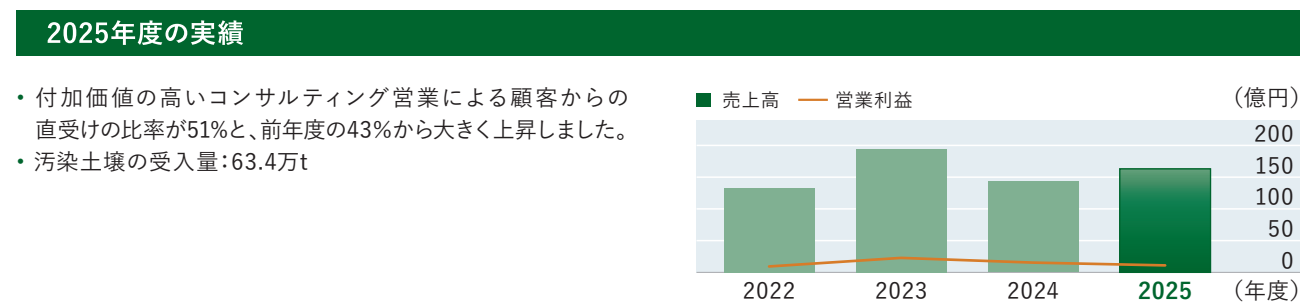
ボーリング等による土壌調査、自社での環境分析、対策工事、汚染土壌の掘削や洗浄による処分を総合的に提供し、効率的な浄化処理と汚染土壌の再資源化を通じて、循環型社会の形成に貢献しています。



ダイセキ環境ソリューションの弥富リサイクルセンター

事業の強み

- ・全国で調査・工事・処理に対応できる機動力
- ・土壌汚染対策のワンストップソリューションを提供できる事業領域の広さ
- ・土壌汚染対策のノウハウをもとにした処理難物へのソリューション提供力（埋設PCB・埋設石膏・黄燐など）



リスク

- ・建築費高騰に起因する建設投資の減退
- ・製造原価（セメント会社・船舶会社等の外注費）上昇による収益の悪化
- ・セメント生産縮小による各セメント会社の統廃合や、原料系廃棄物や建設発生土等の受入縮小
- ・中東情勢に関する国内市場への影響

機会

- ・ダイセキの完全子会社化に伴うダイセキグループの顧客基盤の活用
- ・円安等による製造業国内回帰による汚染土壌の調査機会の増加
- ・国土強靱計画による交通・インフラ工事の活性化に伴う要対策土壌の発生増大
- ・土壌汚染対策法改正に伴う汚染土壌処理のトレーサビリティの規制強化

中長期的な事業計画や施策

- ・下記3つの成長ドライバーを設定しています。

コア事業

土壌事業と資源リサイクル事業の進化と成長

シナジー

多様性×可能性で創る次世代のシナジー

人財

ひとりひとりが成長し、チーム全体で未来を創る

2025年度の主なトピック

- ・非効率な定型業務やAI活用への心理的ハードルといった現場の課題を迅速に解消し、生成AIの全社的な浸透と生産性向上を図るため、部署横断のDX推進者を配置しました。
- ・土壌関連業務の合理化及び営業基盤強化に向けた新システムを開発中です（2026年度導入予定）。
- ・技術面からのコンサルティング体制のさらなる強化と提案力の向上を目的として、新たに技術営業支援室を設置しました。



鉛のリサイクル事業

この事業を担う主要会社
ダイセキMCR

鉛のリサイクル事業では、使用済鉛バッテリーから鉛をリサイクルする事業を展開しています。

CO₂排出量の低減に資する国内初のLNG還元炉や、鉛精錬分野で世界初となる50t誘導加熱精錬炉を導入し、高効率かつ高品質な再生鉛の製造を実現しています。

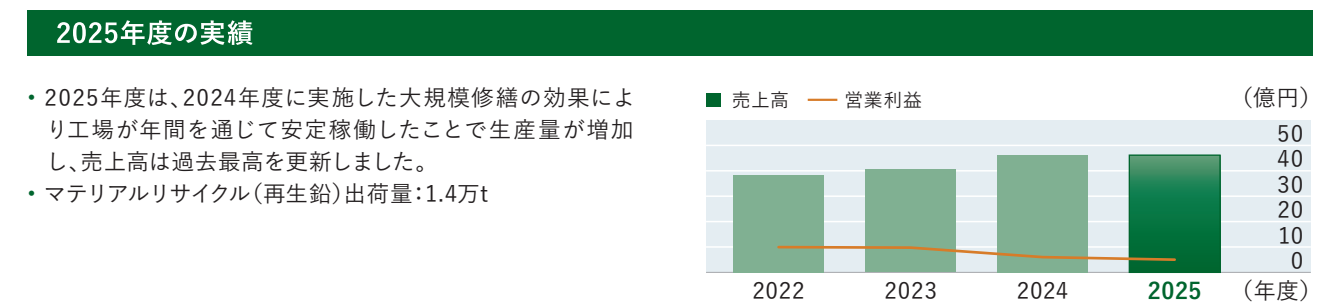
製造した再生鉛はバッテリーメーカーへ供給し、サーキュラーエコノミー型の資源循環の高度化と環境負荷の低減に貢献しています。



ダイセキMCR宇都宮リサイクルセンターの回転ガス熔解炉

事業の強み

- ・グループ内連携によるワンストップでのサービス提供
- ・競合他社に先行するリサイクル処理プロセスで環境負荷低減・カーボンニュートラル対策を実施することにより国内で最もCO₂排出量の少ない再生鉛を供給



リスク

- ・違法解体業者・違法リサイクル輸出業者による原料争奪の動き
- ・上記による原料の使用済鉛バッテリーの価格上昇による仕入れコストの増加

機会

- ・サーキュラーエコノミーへの移行に向けた国による政策の推進及び企業による再生材利用の推進による再生鉛の需要拡大
- ・カーボンニュートラルを志向する顧客の増加を背景に環境負荷の低い鉛リサイクル事業への需要拡大

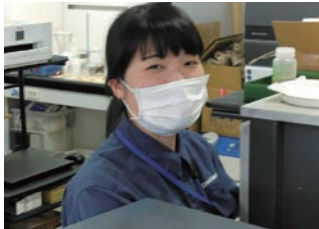
中長期的な事業計画や施策

- ・再生鉛の需要増を見込み、今後3年間で約25億円を投じ、生産能力を2倍に引き上げ、国内シェアを現在の5%から8～10%程度に拡大する計画を進行しています。
- ・宇都宮リサイクルセンターと篠井工場の2ヶ所に分かれていた鉛の精錬成型工程を平出工場に移転集約するとともに、宇都宮リサイクルセンター内に鉛熔解炉を1基増設します。精錬成型移転集約は、平出工場内の倉庫解体跡地を活用して新工場を建設し、精錬成型能力の増強と業務の効率化を図ります。熔解炉を2基に増設することで、ボトルネックとなっていた熔解能力を強化し、ダイセキMCR全体の売上高と営業利益を2倍程度に増大することを狙います。

2025年度の主なトピック

- ・「Supplier of the Year Award 2025」[※]を受賞しました。

[※]エナジーウィズ株式会社が実施している品質向上・納期遵守・原価削減・環境保全等で優れた成果を出したサプライヤーを評価・表彰する制度



ダイセキMCR
製造部
生産技術担当

事業別の成長戦略と進捗



大型タンク洗浄事業

この事業を担う主要会社
システム機工



大型タンク洗浄事業では、石油備蓄基地に設置された大型石油タンクや配管、ビットなどの洗浄工事及びタンク関連のメンテナンス工事を中心に事業を展開しています。

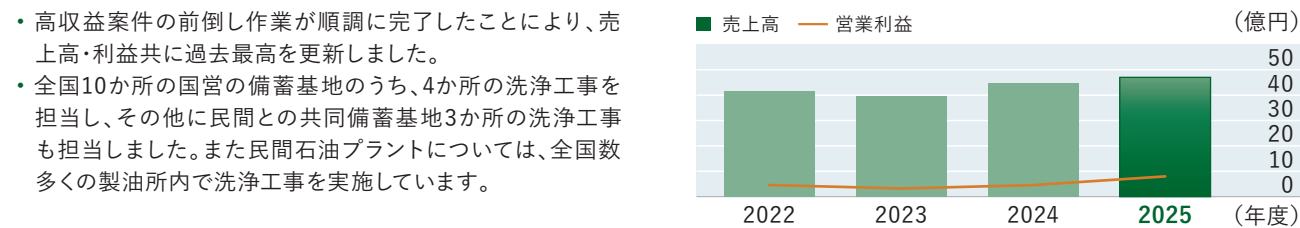
大型タンクに堆積した原油スラッジを、無人で安全かつ短期間で効率的に回収し、タンク内部を洗浄する技術「COW工法」を活用し、洗浄作業の効率化とコスト削減を実現しています。

▶ P.27 特集 顧客課題の解決から次のニーズへ

事業の強み

- ・タンク洗浄に必要な専門機材を数多く保有しており、同時施工できる工事拠点数は国内トップクラス
- ・無人で安全にタンク内部を洗浄できる独自技術「COW工法」

2025年度の実績



環境認識

リスク

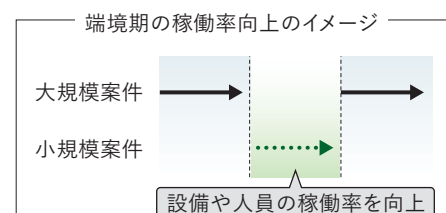
- ・カーボンニュートラルの進展を背景とした化石燃料需要の減少に伴う石油貯蔵設備の縮小
- ・専門性の高い市場特性に起因する人財確保の難しさ

機会

- ・大型石油タンクの保全工事以外にも「COW工法」を活かせる機会(工場の解体や設備内容改変など)
- ・ダイセキとの連携により顧客基盤を拡大
- ・中東情勢の緊迫化を受けた政府による産油国共同備蓄の増強・補充の動き

中長期的な事業計画や施策

大型石油タンク洗浄は工期の長い案件が多く、端境期の稼働率が課題となります。そこでシステム機工では、大型石油タンク以外の小規模設備の洗浄工事を案件の合間に手掛けることで、設備や人員の稼働率向上を図っています。



2025年度の主なトピック

- ・**上水道管の洗浄**
2025年度に東京都杉並区、葛飾区の老朽化した上水道管の更新工事のための洗浄を実施しました。水道管の更新ではパイプ・イン・パイプ工法という古い水道管内に新しい管を入れる工法が用いられ、前処理として古い水道管の洗浄が必要となります。システム機工はこの前処理を実施し、高度経済成長期に整備された社会インフラの維持更新に貢献しました。
- ・**洗浄機材のレンタル事業**
設備稼働率の向上を狙い、2025年度より端境期に洗浄機材を顧客にレンタルする事業を開始しました。



システム機工の資機材レンタルカタログ



その他の資源リサイクル事業

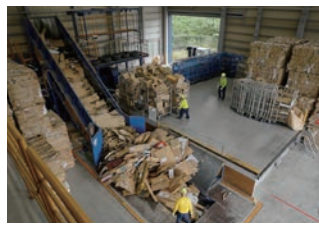
この事業を担う主要会社
ダイセキ環境ソリューション(BDF、PCB)、グリーンアローズ(石膏ボード)、杉本商事(一般廃棄物、再生紙)

廃石膏ボードを石膏粉と紙に破碎・処理し、処理した石膏粉を新たな石膏ボードの原料として再資源化することで、サーキュラーエコノミーに貢献しています。



グリーンアローズ中部の静岡工場

廃プラスチックや古紙のリサイクル、一般廃棄物の収集運搬、微量PCB廃棄物の調査・処分、バイオディーゼル燃料(BDF)の製造・販売、産業廃棄物及び土壌の分析など、幅広い環境関連サービスを展開しています。

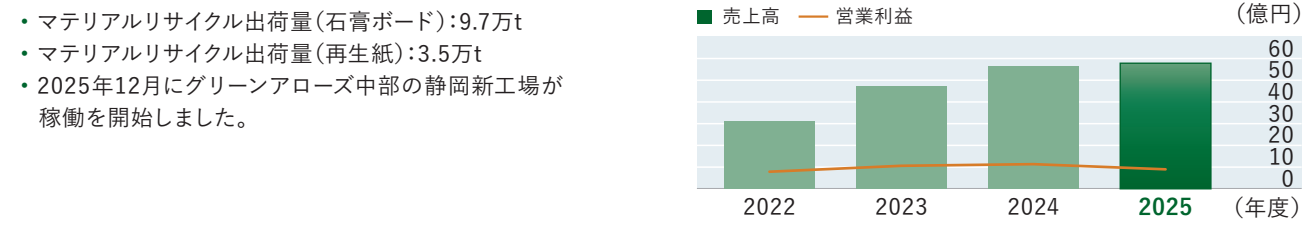


杉本商事の古紙リサイクル

事業の強み

- ・ダイセキの完全子会社化によるグループ連携の強化とシナジー創出
- ・リサイクル率と再生資源の品質の高さ
- ・石膏ボードメーカーとの共同出資コンソーシアムによる循環型サプライチェーンの確立

2025年度の実績



環境認識

リスク

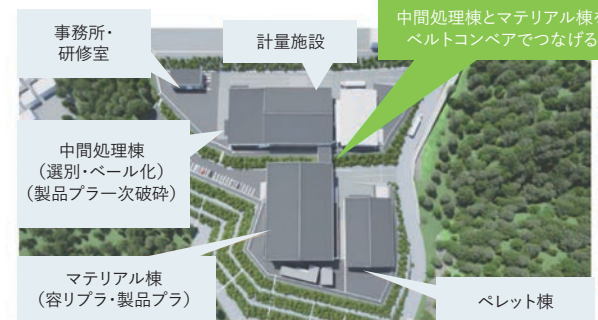
- ・中東情勢の影響による原材料価格の高騰及び調達網の不安定化
- ・廃石膏ボードの市場価値の高まりによる競争の激化
- ・ペーパーレス化の進展に伴う古紙市場の縮小

機会

- ・サーキュラーエコノミーに対する意識の高まり
- ・石炭火力発電所の稼働低下による石膏ボードの競合製品の原料となる脱硫石膏の供給減少
- ・プラスチック資源循環促進法の施行による廃プラリサイクルの需要増大

中長期的な事業計画や施策

ダイセキ環境ソリューションの新規事業として、2029年4月に静岡市民が排出する一般廃棄物のうち廃プラスチックのマテリアルリサイクルを行う事業の立ち上げを計画しています。



ダイセキ環境ソリューションが静岡市で開設する廃プラスチックリサイクル工場の完成イメージ図

2025年度の主なトピック

- ・**廃石膏ボードリサイクル事業の拡大**
グリーンアローズ中部の静岡工場の稼働によりエリア対応力を強化し、新規市場の開拓とマーケットシェアの拡大を目指します。
- ・**グループ内の吸収合併**
2026年2月に杉本商事が杉本紙業を吸収合併しました。経営基盤のさらなる強化と意思決定の迅速化を図ります。
- ・**九州環境カウンセラー協会特別賞を受賞**
2026年1月にグリーンアローズ九州がエコアクション21の環境経営レポート大賞の特別賞を受賞しました。